どんごクラブ

津山だいすき!

わたしもひとこと

憩いの場 グリーンヒルズを無くさないで

グリーンヒルズ津山の広場やグラスハウスで遊んだり、リージョンセンターでの催しに出掛けたり、サンヒルズで買い物をしたりと、度々利用しています。市外から遊びに来る友人もいますし、近くに住んでいる義父母にとっては欠かせない憩いの場です。グリーンヒルズを無くさないでください。（桑上・男性）

グリーンヒルズ津山には、県施設部分と市施設部分があります。県の財政構造改革プラン（最終方針）で県施設は平成22年3月末で廃止するとされています。廃止後については、現在、県と津山市で協議中です。

旧酪農試験場跡地を利用した都市型公園として開園してから10年が経過。市内外から多くの皆さんに利用していただき、親しまれています。

しかし、津山市も厳しい財政状況にあるため、県施設をすべて引き受けることができるのか慎重な判断が必要です。グラスハウスは運営費だけではなく、修繕や維持に多額の費用が必要であるため、市単独での運営は難しいと考えています。一方、グラスハウス以外については貴重な市民の憩いの空間であるため、県からの取得を希望しています。

問い合わせ先 公園緑地課☎32-2097

未来をひっぱる津山人

県北の風景を世界に

写真家 杉浦 慶太さん（大吉）

県ゆかりの若手美術家の育成を目的にした「I氏賞」（県主催）。この2月に大賞に選ばれた、写真家の杉浦慶太さんにお話を伺いました。

大賞受賞作品は「森」。なぜ「森」、それも夜の「森」を撮影しようと思ったのですか？

小さいころから建築関係の仕事をしていた祖父のカメラで遊んだりしていましたが、本格的に始めたのは大学に入ってからです。大学卒業後は東京の写真スタジオを経て津山のタウン情報誌で働き、写真撮影のロケのためにカメラを持って県北の各所を回っていました。

そんな中で勝山や湯郷などの森を見て何か「感じるもの」があったのです。それも昼間の親しみやすく「エコ」などと一方的にポジティブな解釈で捉えられている森ではなく、人間を寄せ付けず、日本人が古来から八百万の神々を感じるような夜の森に。そんな「森」を撮影することによって「森」が本来持っている「畏れ」を表現したかったのです。

県北の「森」しか撮影しないのですか？

県北の「森」にこだわっているのは、自分が住んでいるところだからです。旅行にどこかへ出掛けて美しい風景があったからといって、写真を撮ることはありません。なぜなら、自分の中に根付いている風景でしか、良いものは撮れないと考えているからです。

だから、これからもずっと県北で活動していくつもりです。今は「森」を撮っていますが、今後は普段何気なく見ている県北の風景も撮ろうと思っています。写真を通して見ることで、いつも眺めている風景から新たな発見が生まれる―そんな写真を狭く深く追求していきたいと考えています。

県北での芸術活動はどうですか？

県北には、ほかにも多くのアーティストが〝自力〟で作品を制作し、発表しています。中にはオリジナリティーにあふれ、高いクオリティーの作品も多くあります。

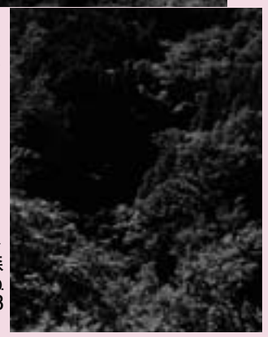
昨年開催された県民文化祭では、そんな若手アーティストがソシオ一番街などで作品を発表する「アート屋台村」を展開することができ、とても良い機会を得ることができました。

時間と能力を使って作品を制作し、その結果として報酬をいただく。一般社会では当たり前のことを初めて実体験できました。こうしたことを通して客観的に自分の作品と社会とのかかわりを意識することができるようになったのです。

今後もこのような機会が増えると、アーティストも社会性を意識しつつクオリティーの高い作品を生み出していけるのではないでしょうか。今回のI氏大賞受賞によって、県北における芸術活動がますます盛んになってくれるとうれしいですね。

ウクライナやアメリカで開いた個展が大好評だった杉浦さん。これからも世界中の人々に杉浦さんの写真と県北の風景が届くといいですね。

▲森No.11



▶森No.23

わたしのおすすめ

津山洋学の旧跡を訪ねて

津山商業高等学校　平成20年度卒業生

佐古　瑞穂（みずほ）さん（勝部）

津山をよりよく理解し、少しでも地域に貢献したいと思って作成した「津山洋学マップ」。課題研究「津山学」を履修していた４人で「洋学について学んだことを形に残したい」と企画しました。

マップに掲載した津山洋学ゆかりの旧跡は５カ所。皆さんに興味を持ってもらえるように、日本の洋学の発展に寄与した郷土の偉人に関係する①宇田川興斎（こうさい）屋敷跡②津田真道（まみち）生誕地③箕作阮甫（みつくりげんぽ）旧宅④箕作阮甫先祖の墓⑤宇田川三代の墓所を選びました。さらに市内外から訪れやすいように工夫した地図に加え、それぞれの旧跡の解説を掲載しています。

多くの人に手に取って見てもらえるものにしようと、津山洋学資料館にも協力していただきながら「洋学」について調べることから始め、現地を実際に訪れて作成しました。

津山洋学資料館や津山観光センターで配布していただいていますので、ぜひ「津山洋学マップ」を片手に、日本近代化のルーツでもある津山洋学の旧跡を訪れてみてください。

また、それぞれの旧跡を訪れた時に素直に思ったことや感じたことを、わたしたちの似顔絵入りで紹介しています。中学生や高校生にも興味を持ってもらえたらうれしいですね。

津山洋学マップ ―日本近代化のルーツを訪ねて―

配布場所　津山洋学資料館、津山観光センター

問い合わせ先　津山洋学資料館☎23-3324